

会議等報告書

会議名	山形市第1層生活支援体制整備協議体 (テーマ：高齢者等の孤立や事故防止に向けた多様な主体による日常的見守りの促進)
日時	令和4年3月28日(月) 10:00～11:30
場所	山形市総合福祉センター2階 交流ホール
報告者	長寿支援課 地域包括支援係 主任 鈴木 夏月
出席者	訪宅事業者(山形新聞社、山形県読売会、日本郵便、ヤマト運輸、佐川急便、赤帽山形、かがやき弁当、まごころ弁当、宅配クック123、ワタミの宅食、生活協同組合共立社、山形ヤクルト販売、森永乳業、ヤマザワ(とくし丸事業))、山形警察署、第1層生活支援コーディネーター、第2層生活支援コーディネーター、地域包括支援センター、福祉まるごと相談員、おれんじサポートチーム、山形市長寿支援課

内容
1 開会
2 あいさつ
3 自己紹介
4 山形市第1層生活支援体制整備協議体について
① 協議体の位置づけ及び山形市の現状 資料1 参考資料1-1 参考資料1-2
② 課題の把握及びテーマ選定の経緯 資料2 参考資料2
5 既存の取組について
① 事業者の取組について 当日資料
② 地域における取組について 資料3 参考資料3
6 本取組について
① ガイドライン及びツールについて 資料4-1 資料4-2 参考資料4-1 参考資料4-2
② 意見交換
③ 今後のスケジュールについて 資料5 参考資料5
7 閉会

4 山形市第1層生活支援体制整備協議体について

- ① 協議体の位置づけ及び山形市の現状
長寿支援課地域包括支援係 三宅係長より【資料1・参考資料1-1及び1-2】に沿って説明。
- ② 課題の把握及びテーマ選定の経緯
第1層生活支援コーディネーター 山蔭氏より【資料2・参考資料2】に沿って説明。

5 既存の取組について

- ① 事業者の取組について
 - ・山形新聞 佐藤氏より【当日資料】に沿って説明。
 - ・宅配クック 123 酒井氏より【当日資料】に沿って説明。
- ② 地域における取組について
第2層生活支援コーディネーター 山内氏より【資料3・参考資料3】に沿って説明。

6 本取組について

- ① ガイドライン及びツールについて
 - ・長寿支援課地域包括支援係 鈴木より【資料4-1及び4-2・参考資料4-1及び4-2】に沿って説明。
 - ・山形警察署生活安全課 課長 近埜氏より、通報時の留意点や通報受付の実態について説明。

② 意見交換

出席した民間事業者より意見聴取を行った。

ワタミ：対応に迷う事案も年に何件かはあるので、相談できる場所があるというのは助かる。

まごころ：チェックポイントを分かりやすく提示していただいたのがよかった。

ヤマザワ：とくし丸は高齢者の利用が多いので、この取組に協力できる場面は多いかと思う。

他市町村でも同じような取組ができればよいと感じた。

ヤクルト：自社では今行っていることを強化していきたい。ただ、自社でカバーできるのは一部分であるため、連携を意識していきたい。地域包括支援センターやケアマネジャーとも情報共有できればよいと思っている。

森永：他自治体で連携した取組を行っているところがあるので参考になるのではないかな。

生協：対応の流れをまとめてもらったのがよかった。

倒れている時に119番したこともあるが、110番の方がよいのだろうか。

→（警察署より回答）110番してもらった上で119番につなぐことも可能なので、110番でも大丈夫である。

赤帽：支援が必要な人の情報をどう集めるかが大事ではないか。地域から孤立している人の支援が課題と感じる。

佐川：自社では令和3年から「タウンサポート」として地域課題の解決に向けた取組を進めている。今回の取組もその一環として協力していきたい。

異変発見時の対応を定めてもらったのがよかった。

ヤマト：一歩踏み込んだところまで市で考えていただいたと思う。今後、情報共有や連携について関係機関と検討していきたい。

郵便局：行政との連携が大切だと再確認する機会となった。配達員の悩みの解消につながってほしい。

読売：このたびの取組による事例を記録しておくといいのではないかと考える。何月に発生することが多いのかなど傾向を探り、何に気をつけるとよいのか共有していくことで有効な取組となるのではないかと。

どんな状況でどう動いたのかということや、上手くいったものだけでなく、こうすればさらによかったという点についても分かるとよいと思う。

山新：『ガイドライン』に記載の、「連絡先の把握」や「情報提供の同意」は事業者としてはなかなか難しいと感じる。行政側で情報を一括管理し、必要時に事業者が活用できるような仕組みはできないだろうか。また、市の受付時間について、休日などの対応もご検討いただきたい。

宅配クック：福祉連絡カードの活用はよいと思うが、鍵がかかっている家に入れない場合は見ることができないのでその時はどうすればよいのかとも思う。

ケアマネがついていない利用者について、地域の支援者のことが分かると、事業者としてもできることが増えるのではないかと感じた。

山形市：市としては利用者と事業者の間でのトラブルを避けたいという思いがあるため、事業者の皆様には可能な範囲でご協力いただきたいと思う。

市にご相談いただければ、持っている情報を活用しながら、警察や関係機関と連携して対応していくので、心配な場面に遭遇した場合などは連絡していただきたい。

先ほどご意見をいただいた件について、事例を蓄積し分析することで、よりよい取組にするため今後も検討していきたい。

③ 今後のスケジュールについて

長寿支援課 鈴木より【資料5・参考資料5】に沿って説明。

7 閉会